

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2390900021		
法人名	株式会社 フレンズホーム		
事業所名	フレンズハウス古新町		
所在地	愛知県名古屋市熱田区古新町2丁目72番地		
自己評価作成日	H25年11月19日	評価結果市町村受理日	平成26年3月13日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	福祉総合研究所(株)		
所在地	名古屋市東区百人町26 スクエア百人町1F		
訪問調査日	平成25年12月9日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・地域との関わりを大切にしており町内パトロールやいきいきサロン(町内のお茶会)にも参加している。更にはスイカ割り、秋祭り等の多数の行事にも参加している。 ・消防訓練に力を入れており年4回実施しておりAEDや消火器の取り扱い方法も学んでいる。消防訓練時には内部研修を開催し搬送法の勉強会も行っている。震災時は地域の方の協力を得て一緒に避難する事となっている。 ・温泉タンクを設置しておりホームにしながら温泉気分を楽しむことが出来るため楽しみの一つとなっている。 ・職員が研修に行く機会を多く持ち参加している。経験に合った研修の為、知識の向上に役立っている。 ・ご家族の面会が多く、ご利用者との関係も良好に保たれている。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>職員はお互いに思いやりや、信頼をしいチームワークを大切にするという理念を各フロアにて持ち、具体的な目標に向けてサービスの向上に努めている。また、職員が研修に行く機会を多く持ち知識向上に役立っている。地域の行事としては町内のパトロールやいきいきサロンなどに職員と利用者が一緒に参加して交流を図っており、良好な関係が築かれている。特に防災訓練には力を入れており、年に4回、消防団の人を中心に実施している。今回は、AEDの取り扱いや消化器の取り扱いの方法を地域と職員が学びつつも利用者を避難できるように取り組んでいる。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	住み慣れた地域で明るく元気に暮らしたい。施設の規則や必要以上の拘束は行わない。その人らしい生活が出来る施設の理念のもと達成に向け努めています。その他、各ユニットごとに理念を設定しチームワークを向上させる為、ミーティングでも理念の唱和と達成度を話し合い、統一したケアに結び付けている。	各ユニットの理念を具体化した目標を掲げ、実践に取り組み半年に1回は見直し更新している。また、ミーティングでも理念を唱和し、達成感を話し合い、常に統一したケアを行っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ご利用者と共に町内の行事(秋祭り・0の日パトロール・いきいきサロン等)に多く参加している。秋祭りにはご利用者全員参加し職員はお手伝いにをさせて頂いたり、毎月20日には夜間パトロールに職員が参加し、アルミ缶回収にも施設で協力させて頂いている。地域の中学校の合唱部が施設に慰問し交流も図っている。	地域の行事には利用者とともに積極的に参加し、町内会や子ども会との交流も図れている。消防訓練の際には、地域の消防団の方とも交流があり、今年はAEDの訓練を行い、いざというときに対応出来るような体制をとっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症の方の理解をして頂く為に地域の行事への参加や、開所より運営推進会議には町内会長に出席して頂き情報交換をしている。地域の方が認知症のご家族でお困りの時には入所に関係なく相談を受けている。地域の様々な研修(口腔ケア・お口の体操・高齢者の遊び等)にもお声がかかり幾度も参加している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	偶数月に運営推進会議を開催しており町内会長・町内氏子総代・いきいき支援センター職員・ご利用者等の参加があり、施設の運営状況や活動報告など伝えている。その中で意見や助言も頂いており、職員には会議で報告し話し合いを持っている。運営推進会議の詳細内容は議事録にて職員が把握し、サービスの向上に反映させている。	偶数月に運営推進会議は行われ、会議には、町内会・いきいき支援センター・区役所・家族が参加し、意見交換や助言や提案が出されている。それらの提案には職員は、速やかに対応しサービスの向上に反映している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議にいきいき支援センターの方が参加しており高齢者の体調に関してアドバイスを頂いている。他、定期的に区役所へ出かけ、生活保護の方の暮らしぶりやニーズを伝えている。ニーズにより相談等もしており、その都度明確な回答も頂き連携を取っている。	市町村のイベントや講習会には積極的に参加している。また、区役所とは毎月訪問時や電話でニーズを伝え、連携も取れている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	防犯のため夜間のみ玄関に施錠しているが、原則施錠はせず身体拘束をしないケアに取り組んでいる。日頃から不安にさせない様に過ごして貰っているが、ご利用者の意思で外に出て行こうとされる場面では制止せず、制止することにより精神的苦痛を感じてしまう事を常に頭に置き、付き添い自由な暮らしを支援している。	身体拘束については勉強会も行ない、熟知している職員が多く原則、拘束をしないようにしている。外に行きたいと望む利用者は無理やり止めず、安全に配慮した支援を行なっている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待が身体的だけではなく暴言・無視など心理的な嫌がらせ等も含むことを常に理解しているが、職員の中には言葉遣いが不適切である職員がいる現状を会議で報告し、日頃のケアに対して認知症も理解した上でのケアになる繋がる様、勉強会も開催し徹底している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	対称となるご利用者が入居していないため支援には至っていないが機会があるごとに説明は行っている。研修にも参加をしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には本人やご家族が納得のいくよう丁寧に説明を行っている。その際に施設内で起こりうるリスク等も説明し疑問点にもお答えしている。疑問や不安感を聞き相談の上、納得してから契約している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置し意見や要望に応えられるようにしているが、実際にはご家族の面会時に直接、管理者や職員に要望を伝えられることが多い。その他、ケアプラン説明時や電話にてご様子を伝えると共に、ご希望も聞きご家族との関係を大切にしている。	年に2回は家族会の開催があり、意見や要望などを聞き取り記録を残して、それを元に職員で共有している。施設としても受け止め改善に努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に一度の会議にて職員の意見を聞くようにしている。また普段の会話から職員の相談にも耳を傾けている。年2回、個別面談を行いコミュニケーションを図り、管理者に提案や要望を訴える機会を作っている。	会議の前には、意見や要望を提案し課題として話し合いを持っている。また、管理者は年に2回は個人面談を行ない、活動目標についての意見や要望を聞きとり反映できるようにしている。職員は知識や技術向上のため研修に参加もしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は現場に訪れ職員やご利用者と会話する時間を作っている。また職員の資格取得や研修などに向けた支援を行い、本人の意向を重視しながら現場で活かせる労働環境作りにも努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人職員に対しては1ヶ月間はマンツーマンの研修体制をとり、ご利用者との関わり方についても丁寧な指導を実施している。他にも内部研修や外部研修の情報を提示し職員の経験やレベルに合ったものが受講できるように計画を立て、働きながら向上出来るよう努めている。また研修で得た情報を共有している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同じ法人と情報交換し行事等で交流する機会を多く持っている。他に同業者の施設への行事参加もしている。内部研修を行う際に参加を呼びかけたり、他施設での研修にも参加している。情報交換することによりサービスの向上にも努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前にご本人と面談にて状態の把握とご家族の困っている事や趣味・好みを聞き、施設に求めている事を理解しどのような対応が出来るか話し合っている。入居前に職員に情報を伝達し把握に努めている。入居後もご本人の求めている事や不安に思う事を職員が傾聴し情報を共有している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の声をしっかり聞き要望や思いを受け止め、どのような対応が出来るかの検討をしケアに繋げている。職員がご利用者に受け入れられるような関係づくりにも努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前にご本人やご家族が必要とするケアを見極め、福祉用具やマッサージ等お勧めしたり、ご本人やご家族の要望はケアプランにも反映させ改善に向けた支援の提供をし信頼関係に繋げています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食器拭きや洗濯物たたみ等できることはご自分でして頂くよう努め、又お抹茶など得意な方には週一のペースでたてて頂き楽しんでいます。ご利用者は「人生の先輩である」を常に念頭に置いて支援にあたっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の面会時にご本人の日頃の状態を報告し相談しています。また日々の生活の中で気付いた事など情報共有して頂いている。一緒に支えていくため、ご家族と同じ様な思いで支援している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	毎月の命日など外出を大切にしたり、知人・友人など交流が持てる様にも働きかけ、一人一人の生活習慣を尊重している。入居前より日課だった神社のお参りを毎日のように散歩がてら行く支援をしている。	利用者一人ひとりの生活習慣を尊重して、日課としている神社のお参りや行きつけの喫茶店、買い物などの個別支援を行っている。また、お盆やお正月の帰宅や家族との電話のやり取りなど、馴染みの関係の継続支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者全員が参加できるようなレクリエーションに努め、お茶や食事の時間にも職員が間に入り多くの会話を持つように努め関わりを深めている。行事も多く行いコミュニケーションが取りやすい場を設けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	新しく変わった施設との連携を持ち、今までの生活が出来る限り持続できるよう、相談や必要に応じた情報提供を行っている。また姉妹施設に移られた方の誕生日会に招待されたり、行事に招待し退去後も交流している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご利用者一人一人の意向を聞き、それに近づけるように努力している。また日々の関わりの中で言葉や表情から把握したり、ご家族から情報を得ている。どの様に暮らすことが最良なのか、ご家族を交えながら検討している。	家族の面会が多いのでケアプランを見せ、意見を聞いている。希望があれば買い物にも一緒に行くなど、些細な希望にも対応するよう心がけている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前にご家族より今までの生活歴を詳しく聞いている。その方の背景を知れば知る程その方の理解に繋がっており、重要なことと考え続けている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人一人の暮らし方や生活リズム、身体状況なども細かく記録に残し、申送りなどで職員全体が日々の現状を把握しながら支援している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	現状と介護計画にズレがないよう職員全員の意見を基に、3ヶ月に一度モニタリングを行い、ご家族にも意見や思いを聞き、話し合いながら変化に応じたケアプランを作成をしている。	3ヶ月に1度モニタリングを行ない、家族にも電話で意見を聞いている。家族や利用者の要望等をプランに反映し、本人の状態に即した計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録を用意し、各ご利用者の食事・水分・排泄など身体状況及び日々の暮らしの様子、気づき等記録している。勤務前には申送りノートや個別記録の確認を義務付けている。また、朝・夕の申し送りでのその日の予定や重要な事などは、口頭でも伝えるように徹底している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族のニーズに合わせて、その都度の対応に心掛けている。通院や送迎等の必要に応じた際には、ご家族の要望などを軸に臨機応変に対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティア、訪問マッサージ、訪問理美容、消防署などの介護保険以外にも情報提供を行ない利用できるような支援している。また地域のお店(スーパー、コンビニ、喫茶店)にも出かけられるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人やご家族が希望するかかりつけ医となっている。受診の際は情報提供を行ないご家族が受診するが、必要に応じて職員が受診する事もある。受診の際の情報は協力医にも報告し健康状態の把握にも努めている。	かかりつけ医は24時間の対応である。希望の病院に行く場合は家族が付き添っている。内科医は月2回、眼科・歯科は月1回往診となっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回、訪問看護師がみえ、ご利用者の健康管理や健康面での相談をアドバイスを頂いている。主治医との連携も取れているので適切な医療を受ける事が出来ている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際は情報提供書を作成し担当医や看護師とも情報を共有している。定期的に見舞い、ご本人の状態を把握すると共に入院によりAEDの低下を防ぐため、出来るだけ早く対応可能な段階で退院できるよう担当医とも連絡を取るよう努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化に伴いご家族との連携を大切にしている。ご本人やご家族の意向に沿えるように話し合いを持ち、事業所が対応しえる最大のケアを説明している。その際、医師と連絡を密に取り指導のうえ可能な限り支援できるように努めている。	終末期には病院に入院している。ターミナルケアについて職員も対応できるように勉強するため講習会に出かける予定である。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応について職員全員に勉強会を開催している。またマニュアルを整備し誰でも対応出来る様にし周知徹底を図っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年4回避難訓練と搬送法の勉強会を実施している。その中で2回は消防署員立会のもと夜間の火災想定での訓練をし指導、助言を頂いている。消火器の扱い方も平行して実施している。また2回は避難訓練とし地域の避難場所まで各個人の避難リュックを背負い避難している。避難時には地域の方の協力を依頼している。訓練により避難する事を身につけている。	年4回の避難訓練を行っている。各自、自分のリュック(薬、食料など必要なものが入っている)を背負い津波を想定し高速道路の上のぼる手配もしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご利用者一人一人の気持ちを大切に考え、さりげないケアを心掛けています。また人として敬意を払い馴れ合いの中でも、ご本人の尊厳を無視した対応にならないよう努力している。	利用者は一人ひとり人生の先輩で学ぶことがたくさんあるので、職員は尊敬の意を忘れず対応することを心がけている。利用者の尊厳を重んじ対応している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	意思決定が困難なご利用者に対しては複数の選択肢を提案し、ご自分で決められるような場面を作っている。また希望、関心を基にし表情を読み取るなど、職員の押しつけにならない様に努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な一日の流れは決まっているが買い物、洗濯物たたみなどの個別対応を増やし、一人一人のペースや体調を配慮しながら、その人らしい生活が出来るよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	二ヶ月に一度訪問理容を利用し常に清潔を心掛けている。また日々の身だしなみにも気にかけている。毎日の服選びはご本人に伺い選んで頂いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	偏らない食事を心掛け、食事の盛り付け、配膳、片付けもご利用者と一緒に行っている。また職員と共に楽しい食事となるよう同じテーブルで食べるようにしている。日々の買い物にも一緒に行って頂き食品を選んでもらっている。	利用者にそれぞれできる手伝いをしてもらっている。(配膳、片付け、野菜を切ったり)利用者の体重を確認してカロリーを増やしたり、減らしたりしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人一人の食事量や水分量を記録に残し把握している。体調が悪く摂取量が少ない時は主治医に報告し、補食を提供する等の対応をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	ご自分で出来る方には声掛けし見守りで行っている。出来ない方には歯磨きの手伝いをしている。義歯は管理しており、日々の手入れを確実に出来るようにしている。また月に一回歯科往診があり口腔内の清掃をしてもらっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	チェック表などを使用し個々の排尿感覚に合わせ声掛け、トイレ誘導し自立に向けて支援しています。身体機能に応じて歩行介助をしたりパット類もご本人に合わせ検討している。	利用者に自信を持ってもらうために基本的におむつを使用していない。職員はチェック表などを利用し、時間で声かけをし、排泄の支援を行なっている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分を多く摂ってもらい硬水やバナナの提供を行っている。またお腹のマッサージを取り入れ支援している。便秘を促す為、散歩や体操を日課に出来るよう努力している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	希望に応じて入浴して頂けるよう順番をずらしたりしているが、希望がかなわない時は言葉かけや対応の工夫、入浴日を増やすなどチームプレイなどによって一人一人に合わせた入浴支援をしている。	2日に1回は入浴をしている。利用者の希望に合わない場合も順番を変えたりして気持ち良く入浴を楽しめるように対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中はレクリエーション、会話、散歩などを取り入れ活動的に過ごして頂き、夜間は眠って頂ける様に生活のリズムを整えています。その他、自由な時間も大切に希望に応じて休んで頂いたりもしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の服薬ファイルを作成したり、薬変更・状態変化も常に観察し申し送る為、職員が内容を把握している。服薬時にも多数の職員で細心の注意を図っている。医師・看護師・薬局との連携も取れている。また薬局の方による薬の勉強会も開催し効能・副作用を理解している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人一人の習慣にしていた事や楽しみにしている事を発揮できるように役割を増やしたり、手伝いをして下さったことに対して、感謝の言葉を伝える事で生きがいを持って頂けるように配慮している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	喫茶ツアーや外食ツアーなど外出の行事計画をし、外出する機会を増やすように心がけている。またご本人の希望で行きたい所があれば、要望に応えられる様ご家族にも協力を得て外出する事もある。また町内のお茶会にも月2回程度参加している。	利用者の希望に応え、喫茶店や回転寿司などの外出支援を行ったり、シャンプーの買い出しなどにも同行する。また、歌謡ショーを聴きに外出したりもしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の支払いが出来るご利用者には、ご家族の協力を得て少額の所持金を管理している。お菓子などご自分で購入したい方は職員付き添いのもと、買い物に行きご本人で支払っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自立している方はご自分で携帯電話を管理し、好きな時間にご家族と話をしている。持っていない方は希望時に施設の電話が使用可能となっているが、今の所希望する方はいない。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用部分は皆様が使いやすいように配慮し、室内の温度設定も細かい調節をしている。窓際にはソファを置きくつろげる場所を作っている。また季節に応じた飾り付けをも工夫し心地よい空間を作っている。自室では家具や写真など思い出の品々を持ち込まれ、居心地の良い場所になっている。	共有空間は、いやな臭いもなく清潔である。毎日の生活も居心地良く送れるよう居間のテーブルの配置を工夫したり、テーブルの利用者が座る位置に名前を貼ったりしている。利用者は花壇を耕したり、花を植えたりして季節を感じている。朝、夕に係を決め、水やりをして成長を楽しんでいる。花壇に咲いた花を居間に飾り利用者で楽しんでいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングのソファで思い思いに過ごしたり、椅子の配置なども考え気の合った方同士で楽しい時間を過ごしている。また仲の良いご利用者同士誘い合い、居室で話している事も多くみられる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人とご家族が入居時に相談し、使い慣れた馴染みの家具や思い出の物を持ってきてもらっている。新しいものは混乱を招いたりする為、なるべく見慣れたものにして頂く様ご家族に理解して頂き、居心地良く安心して過ごせるようにしている。	居室は利用者の使い慣れた家具などを持ち込み、居心地良く過ごせるよう配慮している。また、思い出の写真を飾ったりして、安心して生活できるように努めている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや居室などに貼り紙をし分かりやすくする事で、場所の確認が出来るようにしている。また必要な場所には手すりやスロープなどを設置し、安全かつ自立できる生活に配慮している。		

外部評価軽減要件確認票

事業所番号	2390900021
事業所名	フレンズハウス古新町

【重点項目への取組状況】

重点項目①	事業所と地域とのつきあい (外部評価項目: 2)	評価
	町内会に加入し、地域の行事には利用者と共に積極的に参加をし、交流を図っている。事業所としては、消防訓練にはとくに力を入れており、年に4回地域の消防団に、指導や助言をしてもらっている。地域の子供会には、事業所の行事のときに声をかけ交流の場を持つようにしている。	○
重点項目②	運営推進会議を活かした取組み (外部評価項目: 3)	評価
	会議は年に6回偶数月に開催している。会議には、町内会長・いきいき支援センター職員・消防団・区役所職員などが出席して行われており、多くの意見や助言が出され相互理解の良い機会となっている。課題としては、活動・行事・研修の報告や運営状況・外部評価について質疑応答がされるが解決にむけて話し合いがされている。	○
重点項目③	市町村との連携 (外部評価項目: 4)	評価
	運営推進会議以外にも担当窓口とは月に1回は情報交換を行い、相談をしたり、助言をもらっている。市主催のイベントや勉強会にも積極的に参加している。	○
重点項目④	運営に関する利用者、家族等意見の反映 (外部評価項目: 6)	評価
	家族会は年に2回開催され、多くの家族の参加もあり、活発な意見交換も行われ、意見や要望には、施設として受け止め速やかに対応し改善され、事業所の運営に反映されている。また、家族には家族向けのホーム便りが定期的に発行され、状況がわかりやすくなっている。	○
重点項目⑤	その他軽減措置要件	評価
	○「自己評価及び外部評価」及び「目標達成計画」を市町村に提出している。	○
	○運営推進会議が、過去1年間に6回以上開催されている。	○
	○運営推進会議に市町村職員等が必ず出席している。	○
総合評価		○

【過去の軽減要件確認状況】

実施年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度
総合評価	—	○	○	○	○	

1. 外部評価軽減要件

- ① 別紙4の「1 自己評価及び外部評価」及び「2 目標達成計画」を市町村に提出していること。
- ② 運営推進会議が、過去1年間に6回以上開催されていること。
- ③ 運営推進会議に、事業所の存する市町村職員又は地域包括支援センターの職員が必ず出席していること。
- ④ 別紙4の「1 自己評価及び外部評価」のうち、外部評価項目の2、3、4、6の実践状況 (外部評価) が適切であること。

2. 外部評価軽減要件④における県の考え方について

外部評価項目2、3、4については1つ以上、外部評価項目6については2つ以上の取り組みがなされ、その事実が確認 (記録、写真等) できること。

外部評価項目	確認事項
2. 事業所と地域のつきあい	(例示) ① 自治会、老人クラブ、婦人会、子ども会、保育園、幼稚園、小学校、消防団などの地域に密着した団体との交流会を実施している。 ② 地域住民を対象とした講習会を開催若しくはその講習会の講師を派遣し、認知症への理解を深めてもらう活動を行っている。
3. 運営推進会議を活かした取組み	(例示) ① 運営基準第85条の規定どおりに運用されている。 ② 運営推進会議で出された意見等について、実現に向けた取り組みを行っている。
4. 市町村との連携	(例示) ① 運営推進会議以外に定期的な情報交換等を行っている。 ② 市町村主催のイベント、又は、介護関係の講習会等に参画している。
6. 運営に関する利用者、家族等意見の反映	(例示) ① 家族会を定期的 (年2回以上) に開催している。 ② 利用者若しくは家族の苦情、要望等を施設として受け止める仕組みがあり、その改善等に努めている。 ③ 家族向けのホーム便り等が定期的 (年2回以上) に発行されている。

(注) 要件の確認については、地域密着型サービス外部評価機関の外部評価員が事実確認を行う。